【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA
グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

四半期運用レポート

2010年1月～2010年3月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタインは、業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。
アライアンス・バーンスタイン株式会社は、アライアンス・バーンスタインの日本拠点で、1986年（アライアンス・キャピタル・マネジメント・ジャパン・インク 東京支店の設立）以来、個人投資家や機関投資家の皆様に幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）（*）」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

* 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート　　（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境　[2010年1月～2010年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇しました。TOPIX（東証株価指数）は12月末比＋7．85％上昇の978．81ポイントで終了しました。
1月は、欧米株式市場の上昇や企業業績の改善期待などから上昇して始まりました。中旬以降、中国の金融引き締めや米国の新金融規制法案を嫌気したことなどから下落に転じ、さらにギリシャの財政悪化懸念を背景にした円高などから軟調な展開となりました。3月に入ると、日銀が追加的金融緩和を決定したことや円安傾向が続いたことなどを受けて上昇に転じました。
業種別（東証33業種）では、中国などの需要拡大による業績回復期待から「海運業」（12月末比＋35．08％）が最も上昇した一方、日本航空が上場廃止となった「空運業」（同▲15．52％）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇し、NYダウは12月末比＋4．11％上昇の10，856．63ポイントで終了しました。
1月は堅調に始まったものの、中旬以降、米国の新金融規制法案、中国の金融引き締め、ギリシャの財政悪化懸念などを嫌気して下落する展開となりました。その後、EU（欧州連合）によるギリシャ支援合意などで上昇に転じ、3月末にかけて好調な企業業績やFRB（米連邦準備制度理事会）による低金利政策継続の表明などを好感し、さらに上昇しました。
欧州株式市場も米国同様の動きとなりました。ギリシャの財政悪化懸念などにより下落基調で推移しましたが、支援策が合意された3月には反転上昇し、市場別騰落率は、英FT100は12月末比＋4．93％上昇、仏CAC40は同＋0．96％上昇、独DAXは同＋3．29％上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、方向感の定まらない展開で推移しましたが、3月は金利上昇基調となり、新発10年国債利回りは1．395％となりました（12月末は1．285％）。
3月上旬までは、国内外の株式や米国債券市場などの動きに左右される展開となり、1．3％台前半近辺で推移しました。中旬以降、堅調な株式市場の動きなどを受けて売り優勢の展開となり、一時1．37％程度まで上昇しました。下旬にかけては、ギリシャ支援策の合意を受けた株価の上昇などを背景に、一時昨年11月以来となる1．4％台に上昇しました。
日銀は、政策金利を据え置き、年0．1％を維持しました。
無担保コール（翌日物）は0．1％程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

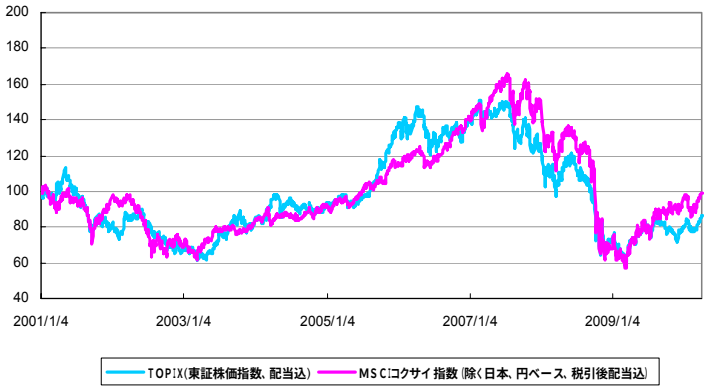
米国債券市場は、軟調な経済指標の発表などを受けて堅調に始まりました。1月中旬以降、低金利政策の長期化見通しや株価の下落などが買い材料となり、さらに金利は低下しました。2月に入ると、FRBが公定歩合を引き上げた一方、低金利政策を長期間維持すると示したことなどから、方向感の定まらない展開となりましたが、3月には堅調な株式市場や国債の需給悪化懸念などを受けて上昇しました。米10年国債利回りは、3月末は3．826％となりました（12月末は3．837％）。
欧州債券市場は、株式市場の下落やギリシャの財政悪化懸念などから先行きの景気不安が強まったことを受けて金利は低下し、相対的に安全と見られる独国債が選好される展開となりました。独10年国債利回りは、3月末には3．092％となりました（12月末は3．387％）。
FRBは、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25％を維持しました。ECB（欧州中央銀行）は政策金利を据え置き、年1．0％を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル／円相場は、米低金利政策の長期化見通しやギリシャの財政悪化懸念などを背景としたリスク回避の動きなどから、米ドルが売られる展開となりました。しかし、3月には世界的な景気回復に対する期待感や、日銀の追加的な金融緩和と米長期金利の上昇などを受けて日米金利差が意識されたことなどから、円が売られる展開となりました。円は対ドルで12月末比0円94銭（▲1．02％）円安ドル高の1ドル＝93円04銭となりました。
ユーロ／円相場は、ギリシャの財政悪化懸念を受けてリスク回避の動きが強まり、円高ユーロ安となりました。円は対ユーロで12月末比7円08銭（＋5．36％）円高ユーロ安の1ユーロ＝124円92銭となりました。

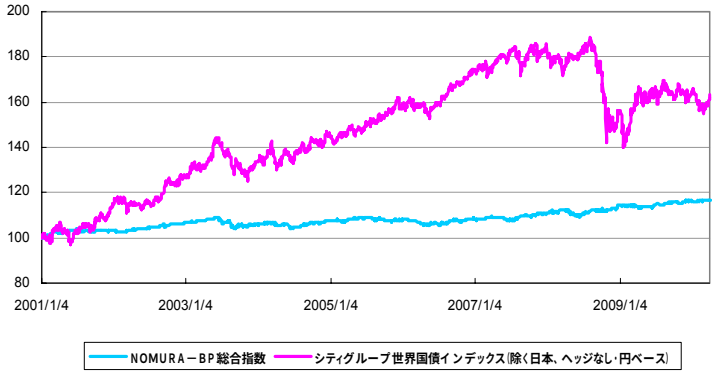
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

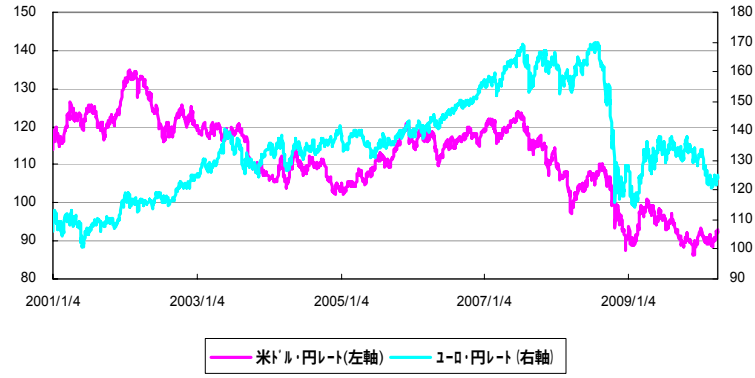


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式　30% 債券　70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション50	株式　50% 債券　50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション70	株式　70% 債券　30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
日本株式	日本株式　100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
世界株式	世界株式　100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券　100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン — グローバル・ボンド・ポートフォリオ（クラスI受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産　100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

※　特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※　特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

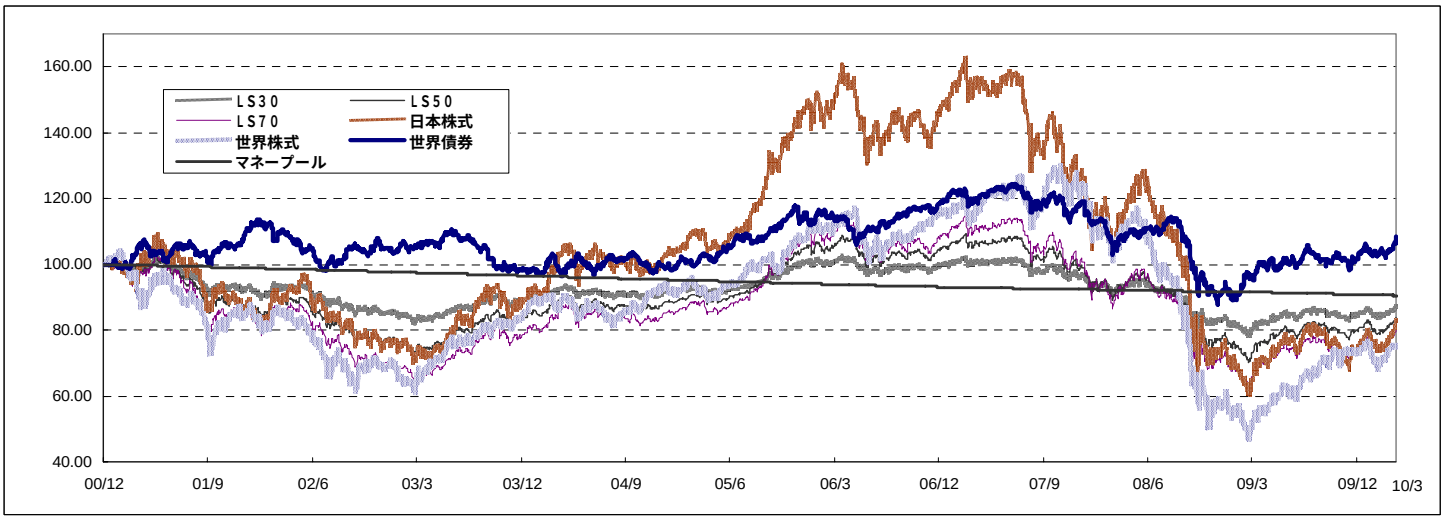
変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2010年3月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	87.04	過去1ヵ月	3.27
2010年2月末	84.28	過去3ヵ月	2.18
2010年1月末	84.50	過去6ヵ月	2.02
2009年12月末	85.18	過去1年	7.88
2009年11月末	83.38	過去3年	▲ 13.53
2009年10月末	84.57	設定来	▲ 12.96

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	83.79	過去1ヵ月	5.53
2010年2月末	79.40	過去3ヵ月	3.70
2010年1月末	79.68	過去6ヵ月	3.54
2009年12月末	80.80	過去1年	13.62
2009年11月末	77.95	過去3年	▲ 21.26
2009年10月末	79.94	設定来	▲ 16.20

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	79.73	過去1ヵ月	7.57
2010年2月末	74.12	過去3ヵ月	5.20
2010年1月末	74.47	過去6ヵ月	5.02
2009年12月末	75.79	過去1年	19.72
2009年11月末	72.11	過去3年	▲ 28.13
2009年10月末	74.75	設定来	▲ 20.26

日本株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	82.43	過去1ヵ月	10.75
2010年2月末	74.43	過去3ヵ月	8.25
2010年1月末	75.11	過去6ヵ月	5.36
2009年12月末	76.15	過去1年	23.90
2009年11月末	69.92	過去3年	▲ 46.77
2009年10月末	75.43	設定来	▲ 17.56

世界株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	75.38	過去1ヵ月	6.73
2010年2月末	70.62	過去3ヵ月	0.88
2010年1月末	70.48	過去6ヵ月	6.36
2009年12月末	74.72	過去1年	43.88
2009年11月末	72.51	過去3年	▲ 35.49
2009年10月末	71.11	設定来	▲ 24.62

世界債券			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	107.65	過去1ヵ月	4.37
2010年2月末	103.15	過去3ヵ月	3.23
2010年1月末	102.92	過去6ヵ月	6.09
2009年12月末	104.29	過去1年	9.55
2009年11月末	99.18	過去3年	▲ 10.45
2009年10月末	103.12	設定来	7.66

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

マネープール			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2010年3月末	90.55	過去1ヵ月	▲ 0.08
2010年2月末	90.62	過去3ヵ月	▲ 0.31
2010年1月末	90.76	過去6ヵ月	▲ 0.56
2009年12月末	90.83	過去1年	▲ 1.08
2009年11月末	90.90	過去3年	▲ 2.56
2009年10月末	90.97	設定来	▲ 9.45

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)
現預金・コールローン	35,319	1.0	65,360	1.0	30,456	0.8
その他有価証券	3,594,087	99.0	6,742,184	99.0	3,807,428	99.2
合計	3,629,406	100.0	6,807,545	100.0	3,837,885	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネープール	
	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)
現預金・コールローン	51,779	1.5	33,859	1.6	28,666	1.1	96,311	16.0
その他有価証券	3,317,540	98.5	2,072,598	98.4	2,600,128	98.9	504,645	84.0
合計	3,369,320	100.0	2,106,458	100.0	2,628,795	100.0	600,956	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

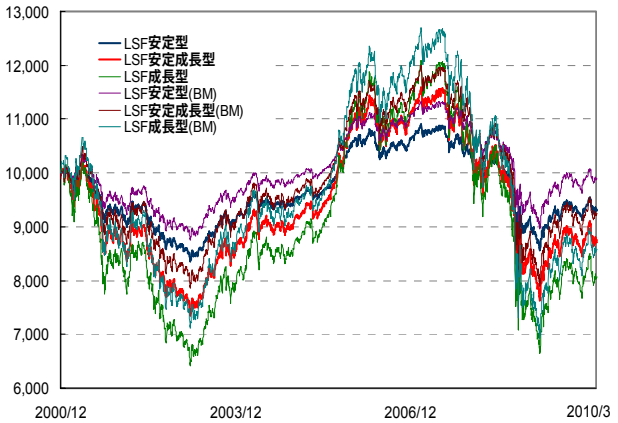
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション30・50・70　［ 2010年3月　末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

［投資信託名］　LS30 ⇒　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）（適格機関投資家私募）
LS50 ⇒　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）（適格機関投資家私募）
LS70 ⇒　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30％・50％・70％程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）
に投資します。

＊ LS:　特別勘定　ライフ・ソリューション
＊ LSF:　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	3.40%	2.49%	2.64%	9.24%	▲10.52%	▲3.72%
BM	2.62%	2.13%	2.69%	9.76%	▲9.37%	1.38%
差	0.79%	0.36%	▲0.04%	▲0.53%	▲1.15%	▲5.10%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	5.68%	4.02%	4.17%	15.07%	▲18.63%	▲7.85%
BM	4.41%	3.54%	4.23%	15.77%	▲17.83%	▲3.83%
差	1.26%	0.48%	▲0.06%	▲0.70%	▲0.80%	▲4.02%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	7.73%	5.54%	5.68%	21.32%	▲25.95%	▲13.49%
BM	6.22%	4.90%	5.74%	22.08%	▲26.07%	▲9.27%
差	1.52%	0.64%	▲0.06%	▲0.77%	0.12%	▲4.22%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	LSF安定型	LSF安定成長型	LSF成長型
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%	40.00%	55.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	30.00%	25.00%	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%	25.00%	12.50%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	26.60%
米国株式	3.00%	6.81%
欧州株式	3.00%	3.84%
日本債券	30.00%	26.84%
短期金融資産等	40.00%	35.91%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	42.82%
米国株式	5.00%	8.67%
欧州株式	5.00%	8.73%
日本債券	25.00%	20.35%
短期金融資産等	25.00%	19.43%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	57.48%
米国株式	7.50%	11.19%
欧州株式	7.50%	10.44%
日本債券	17.50%	13.06%
短期金融資産等	12.50%	7.83%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30（安定型）、LSF50（安定成長型）、LSF70（成長型）それぞれ、前四半期末比＋2．49％、＋4．02％、＋5．54％となりました。一方、ベンチマークのパフォーマンスは、前四半期末比＋2．13％、＋3．54％、＋4．90％となり、ベンチマーク対比＋0．36％、＋0．48％、＋0．64％となりました。
当四半期の当投資信託は、資産配分効果および銘柄選択効果が奏功しました。ベンチマークに対する日本債券、短期資産等の保有を減らし、株式への投資を多めに配分したことや、日本株式ファンドの銘柄選択効果が良好だったことが、ベンチマークを上回る結果となりました。
米国経済は良好にみられていますが、回復力が弱く下方リスクの可能性も否定できません。雇用指数の発表や2月の米公定歩合の引き上げのニュースに対する反応を見ても、市場には依然不透明感が残っています。2月の米国ISM製造業景況感指数は新規受注や生産および在庫データの改善を反映し、好不況の分岐点である50を引き続き上回り、5年ぶりの高水準までに至り、また、サービス業部門の調査結果は良好で景気が回復していることを示しています。米国の雇用指数は、失業率は横ばいとなりましたが、ADP雇用統計は2月に減少、3月は予想を大きく下回るなどまちまちでした。
今後については、レバレッジの解消や雇用の低迷、景気刺激策からの脱却は経済成長の重しとなるでしょう。　株式は2010年のPE予想が過去平均よりも低く、依然割安であることから、当投資信託は、引き続き今後も債券部分を減らし、株式部分を多めに保有する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

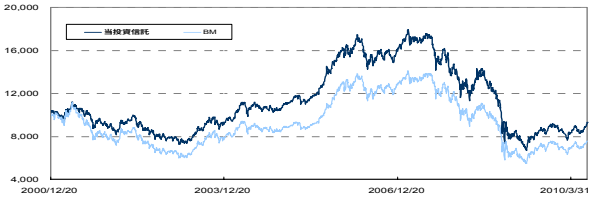
［引受保険会社］
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［2010年3月　末日現在］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	11.03%	8.68%	6.03%	25.61%	▲45.50%	▲6.86%
BM	9.47%	7.85%	7.58%	26.52%	▲42.88%	▲24.08%
差	1.55%	0.83%	▲1.55%	▲0.91%	▲2.62%	17.22%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	電気機器	16.85%
2	輸送用機器	14.40%
3	卸売業	7.77%
4	銀行業	7.11%
5	医薬品	6.47%
6	化学	5.73%
7	鉄鋼	4.81%
8	陸運業	4.73%
9	その他業種	30.17%
10	現金等	1.96%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	ﾏｻﾞｰファンド
1	東京証券取引所第一部	92.75%
2	大阪証券取引所第一部	2.38%
3	ジャスダック証券取引所	1.32%
4	東京証券取引所第二部	1.10%
5	大阪証券取引所第二部	0.28%
6	名古屋証券取引所第二部	0.11%
7	名古屋証券取引所第一部	0.09%
8	現金等	1.96%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	キヤノン	電気機器	4.02%
2	本田技研工業	輸送用機器	3.56%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.23%
4	武田薬品工業	医薬品	2.96%
5	日産自動車	輸送用機器	2.74%
6	ジェイ　エフ　イー　ホールディングス	鉄鋼	2.56%
7	富士フイルムホールディングス	化学	2.16%
8	アステラス製薬	医薬品	2.12%
9	トヨタ自動車	輸送用機器	1.96%
10	東海旅客鉄道	陸運業	1.89%
合計			27.21%
組入銘柄数			346銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋8．68％となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前四半期末比＋7．85％となりました。
当四半期の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことは、プラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、上昇した事務機器を多めに保有していたことや、下落した銀行を少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した自動車を多めに保有していたことや上昇した電力を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。　一方個別銘柄では、ベンチマーク対比で、上昇したイオン（8267）やセブン＆アイ・ホールディングス（3382）を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇した任天堂（7974）やソニー(6758）を保有していなかったことはマイナスへ寄与しました。
当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

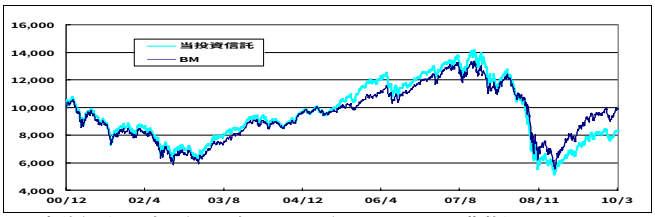
［引受保険会社］
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート(2010年1月～2010年3月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界株式　[2010年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日(2000年12月21日)を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

[投資信託名]　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)
[委託会社]　アライアンス・バーンスタイン株式会社
[運用方針]
マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティ―ズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	6.94%	1.14%	7.12%	46.35%	▲33.97%	▲16.52%
BM	7.18%	2.58%	7.87%	55.61%	▲18.67%	▲0.69%
差	▲0.23%	▲1.44%	▲0.75%	▲9.26%	▲15.30%	▲15.83%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス*6
(税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース)です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国／地域別構成比率

	国名	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	アメリカ	46.68%
2	イギリス	13.05%
3	日本	6.06%
4	スイス	4.12%
5	ブラジル	2.84%
6	オーストラリア	2.54%
7	ドイツ	2.49%
8	フランス	2.08%
9	その他の国／地域	17.35%
10	現金等	2.78%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	情報技術	18.07%
2	金融	14.88%
3	資本財・サービス	13.37%
4	ヘルスケア	12.37%
5	一般消費財・サービス	11.83%
6	エネルギー	9.76%
7	生活必需品	8.39%
8	素材	6.93%
9	その他のセクター	1.63%
10	現金等	2.78%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	グーグル	アメリカ	情報技術	インターネット	1.55%
2	JPモルガン・チェース	アメリカ	金融	総合金融	1.51%
3	アップル	アメリカ	情報技術	パソコン	1.50%
4	本田技研工業	日本	一般消費財・サービス	自動車	1.48%
5	メルク	アメリカ	ヘルスケア	医薬品	1.44%
6	フランクリン・リソーシズ	アメリカ	金融	投資顧問	1.44%
7	リオ・ティント	イギリス	素材	鉱業	1.37%
8	BP	イギリス	エネルギー	石油	1.32%
9	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.31%
10	プロクター・アンド・ギャンブル	アメリカ	生活必需品	家庭用品・化粧品	1.26%
合計					14.17%
組入銘柄数					140銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋1．14%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース)の騰落率は前四半期末比＋2．58%となりました。(以下、委託会社独自のセクター別で記載。)
ベンチマークとの比較では、セクター配分では、ヘルスケア・セクターを高めに組入れていたことなどがマイナスにはたらきました。銘柄選択では、金融サービス・セクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。今後も、自社アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。セクター別では、金融サービス・セクターでは、引き続き長期的な安定成長が見込まれる企業に焦点を当てるなか、金融規制強化への懸念から資本市場関連の組入比率を下げる一方で、改善しつつある株式市場の恩恵を受けると思われる銘柄を中心に組入れています。エネルギー・天然資源セクターでは、石炭や銅、鉄鉱石など需給バランスの取れたコモディティに関連する銘柄に着目しています。情報・通信テクノロジー・セクターでは、企業のIT支出増加傾向などにより今後もファンダメンタルズの改善が見込まれることから、当セクターを高めに組入れています。消費関連セクターでは、旅行と広告業界が回復しつつあるとの見方から、旅行およびメディア関連の組入比率を高めています。インフラストラクチャー・セクターでは、世界的に景気回復の兆しが見えるなか、景気に敏感な資本財関連などに焦点を当てており、機械、電気設備、自動車、航空宇宙・防衛を高めに組入れています。ヘルスケア・セクターでは、世界的な高齢化の進展により様々な医療費の増加が見込まれるなか、ジェネリック薬使用の高まりから恩恵を受ける銘柄に注目しています。また、米国での医療改革法案可決は当セクターの多くの銘柄にとってはポジティブにはたらくと考えています。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

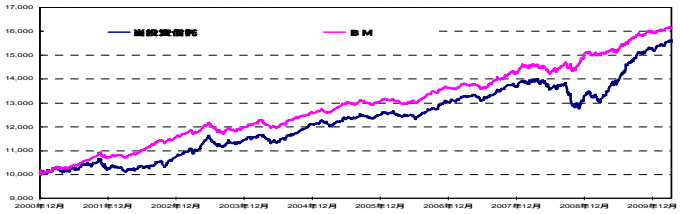
[引受保険会社]
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2010年3月 末日現在 ］

■当投資信託の純資産価格の推移



※　2000年12月21日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン― グローバル・ボンド・ポートフォリオ　（クラスI受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】
主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70％以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.59%	2.89%	3.85%	17.40%	17.74%	105.47%
BM	0.19%	1.70%	1.99%	6.88%	17.46%	116.27%
差	0.40%	1.20%	1.86%	10.52%	0.28%	▲10.80%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックス*7です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○ 国別構成比率

	国名	投資信託
1	アメリカ	30.86%
2	フランス	8.80%
3	カナダ	7.82%
4	ドイツ	6.77%
5	イギリス	6.70%
6	オーストラリア	5.40%
7	スウェーデン	4.61%
8	オランダ	3.48%
9	その他	23.84%
10	現金等	1.72%
合計		100.00%

○ 格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	52.36%
AA	9.53%
A	19.84%
BBB	17.21%
BB	1.06%
合計	100.00%

注）現金等はAAAに含まれます。
格付基準：
※　ムーディーズ社または
スタンダード＆プアーズ（S&P）社のうち、
いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

	債券種別	投資信託
1	国債	56.26%
2	投資適格社債	28.76%
3	カバード・ボンド	3.09%
4	商業用不動産担保証券	2.98%
5	政府関連債	2.27%
6	準ソブリン債	1.33%
7	非投資適格社債	1.31%
8	国際機関債	1.12%
9	その他	1.16%
10	現金等	1.72%
合計		100.00%

○ 組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付 ムーディーズ	格付 S&P	投資信託
1	アメリカ国債(2/15/15-5/15/21)	アメリカ	Aaa	AAA	11.29%
2	フランス国債(12/26/12-4/25/23)	フランス	Aaa	AAA	7.47%
3	カナダ国債(3/15/14-6/1/16)	カナダ	Aaa	AAA	6.65%
4	ドイツ国債(1/4/14-1/4/30)	ドイツ	Aaa	AAA	5.12%
5	ベルギー国債(3/28/15)	ベルギー	Aa1	AA+	3.38%
6	日本国債(9/20/12-6/20/29)	日本	Aa2	AA	3.14%
7	スウェーデン国債(7/15/12-5/5/14)	スウェーデン	Aaa	AAA	2.85%
8	イギリス国債(8/25/17-12/7/28)	イギリス	Aaa	AAA	2.74%
9	オーストラリア国債 (4/15/12)	オーストラリア	Aaa	AAA	2.55%
10	イタリア国債(4/15/13-11/1/23)	イタリア	Aa2	A+	2.50%
合計					47.69%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ 通貨別構成比率

	債券種別	投資信託
1	アメリカドル	98.36%
2	その他	1.64%
合計		100.00%

○ ポートフォリオの状況

	投資信託
平均デュレーション	5.59

※「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。
債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、
金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前四半期末比＋2．89％、一方、ベンチマークであるバークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックスの騰落率は前四半期末比＋1．70％となりました。
四半期ベースでは、商業用不動産担保証券（CMBS）が引き続き回復の兆候を示し、同セクターの比率を高めにしたことがパフォーマンスの主なプラス要因となりました。国別配分とイールドカーブのポジションではポーランドとハンガリーをともに高めにしたことがパフォーマンスの最大のプラス要因となりました。これは2月後半頃からリスク資産へ資金流入したことなどがエマージング市場などに恩恵をもたらしたためです。通貨配分では豪ドルを引き続き高めに組入れたことが、プラスに寄与しました。
当投資信託では、金利エクスポージャーをベンチマークに対して中立に保っています。国別では、欧州と米国に対して最も積極的なスタンスを取っており、日本の組入比率を低めに維持する一方、英国の比率は中立としています。また、投資適格社債の比率を概ね高めにする方針を維持しています。
当投資信託では、世界経済はエマージング諸国が牽引役となり、2010年に3．8％の成長率を実現すると見込んでいますが、各国の財政・金融見通しを巡る不透明感から投資家は引き続き先行きを警戒するでしょう。ただ、こうした状況は、アクティブ運用にはむしろ好都合で、債券では社債など魅力的なリターンの可能性がある銘柄を発掘する絶好の機会であると見ています。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

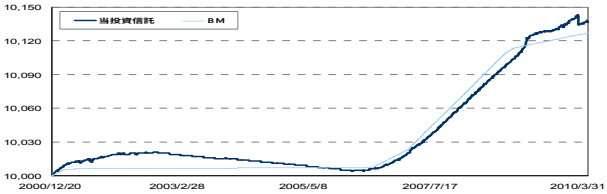
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2010年1月～2010年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　マネープール　［ 2010年3月　末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.02%	▲0.02%	0.04%	0.13%	1.12%	1.37%
BM	0.01%	0.02%	0.05%	0.10%	0.98%	1.27%
差	0.01%	▲0.04%	▲0.01%	0.03%	0.14%	0.10%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

		修正デュレーション	ﾏｻﾞｰファンド
公社債		0.84年	50.85%
	国債	1.37年	27.71%
	地方債	0.00年	0.00%
	特殊債・財投債	0.00年	0.00%
	金融債	0.00年	0.00%
	社債等	0.20年	23.14%
	その他	0.00年	0.00%
短期資産等		0.38年	49.15%
	CD		0.00%
	CP		0.00%
	TB／FB		49.16%
	コールローン		-0.01%
	その他		0.00%
合計		0.61年	100.00%

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰファンド
AAA	5.77%
AA	94.23%
A	0.00%
BBB	0.00%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

○　短期資産等の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰファンド
P-1	0.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	0.00%

格付基準　※ 海外格付機関の格付を優先します。※コールローンは格付別構成比率には含めていません。
※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。
※ FB等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。
※ TB/FBに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

※　「TB／FB」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。
※　「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲0．02%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前四半期末比＋0．02%となりました。
当四半期の債券市場では、経済回復の兆しが反映されるかたちとなり、日経平均株価は堅調で、国債市場は軟調、社債市場は底堅く推移しました。米景気の二番底入りの噂やギリシャ財政難から波及した欧州諸国の財政状況に対する懸念を背景に、3月には円相場は年初来高値圏に入りました。1月の鉱工業生産の確定値および2月の輸出額（貿易統計速報）や工作機械受注など良好な指標もみられましたが、GDPデフレーターや全国CPIなどは軟調であり、年度末に伴う債券市場への僅少な資金流入を背景に軟調に終わりました。当投資信託は、短期債市場は銀行による買取プログラムに支えられるだろうとみて、当四半期に亘ってベンチマークに対してデュレーションを長めにしましたが、この戦略は奏功したもののベンチマークを上回るに至りませんでした。　今後も引き続き、質が高く信用力を確保した銘柄へ投資することで安定した運用と利回りの向上をめざします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利は日興コーディアル証券株式会社に帰属します。また、日興コーディアル証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。
＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。
＊7「バークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックス」とは、バークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるバークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズ・キャピタルに帰属します。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の2．0％	保険料から契約初期費用として2．0％が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して年率1．2％*	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

＊　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2％の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用
特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目1,500円 2回目以降は1回につき2,300円(*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は無料 2回目からは1回につき800円(*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利1．2％	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の8．0％～0．8％	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8％から0．8％）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の8．0％～0．8％	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8％から0．8％）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数
※　貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。
※　将来、上記の内容が変更になることがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ･ソリューション30 年率0．945%程度(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ･ソリューション50 年率1．050%程度(税抜1．000%程度)	
		ライフ･ソリューション70 年率1．155%程度(税抜1．100%程度)	
		日本株式 年率0．840%程度(税抜0．800%程度)	
		世界株式 年率0．8925%程度(税抜0．850%程度)	
		世界債券 年率0．650%程度 *1	
		マネープール 年率0．034125%～年率0．483000%程度 (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更･運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡･償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の1．0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/